



## 【1】一種研開催報告

一種研が7月24日から26日の3日間、北海道大学フロンティア応用科学研究棟(写真1-2)にて開催されました。今回も昨年7月と同様に、宇宙・航行エレクトロニクス研究会(SANE研)、衛星通信研究会(SAT研)と併催されました(写真3)。A・P研では、オーガナイズドセッションが7件、チュートリアル講演1件、A・P研2種研講演1件、IEEE AP-S Tokyo Chapter特別講演1件の計30件の発表があり、SAT研が3件の特別講演を含む計18件、SANE研が計12件、トータル60件の講演が行われました。昨年7月の研究会よりもさらに6件増加し、プログラム作成に幹事の皆さんが大変苦勞されました。2日目の発表は2会場にて平行形式で行われ、また通常のセッションは従来の25分から20分に短縮する工夫もされました。

IEEE AP-S Tokyo Chapter特別講演では、「無人航空機用無線通信に関する研究開発」と題して、室蘭工業大学の北沢祥一教授(写真4)より講演をいただきました。講演では、室蘭工業大学から車で45分離れた800mの滑走路や、複数の無人飛行機の位置情報等をMulti-hopで地上に伝送する電波環境モニタリングシステムなどが紹介されました。

A・P研のチュートリアル講演では、「月面通信のための電波伝搬～月面大地の反射特性～」と題して、KDDI総研の竹内和則氏より講演をいただきました。月面で無線通信網を効率よく運用するためには、電波伝搬特性の把握が必要であることが説明され、電波無響室で月面模擬砂(レゴリス)を用いた電波伝播の実測結果が報告されました。

## 【2】プログラム編成委員会報告

2024年電子情報通信学会ソサイエティ大会が9月10日(火)～13日(金)に日本工業大学埼玉キャンパスにて開催されます。それに先立ち、7月10日にプログラム編成会議を行いました。A・P研関係の投稿件数は合計143件で、昨年度144件とほぼ同じです。沢山の投稿をいただき、ありがとうございました。プログラム編成の結果、B-1A:4セッション(26件)、B-1B:10セッション(63件)、B-1C:7セッション(38件)、BS-1「Beyond 5G/6Gを支えるミリ波・テラヘルツ波アンテナ・伝搬技術」9/12 9:30～16:30 4セッション(12件)、BS-2「統合技術を活用したアンテナ・伝搬及び関連システム研究最前線」9/11 9:00～10:45 1セッション(4件)、英語セッション:1セッションとなりました。

プログラム編成委員の方々のご尽力に感謝申し上げます。今回のソサイエティ大会から基本的に現地開催で実施されます。皆様、積極的に参加いただき、活発な議論を期待しております。



写真1 会場1



写真2 会場2



写真3 AP研・SANE研・SAT研執行部メンバー

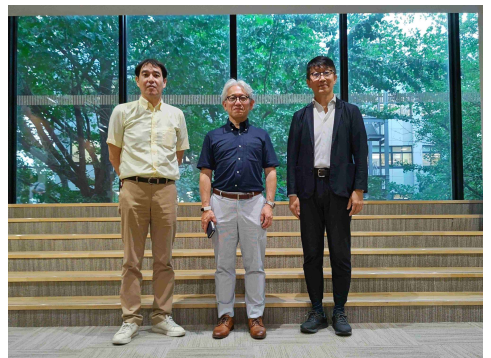


写真4

左: IEEE AP-S Tokyo Chapter 山口良チエア  
中: 室蘭工業大学 北沢 祥一教授  
右: A・P研委員長 榊原久二男教授

### 【3】無線端末・アンテナシステム測定技術研究会(AMT研)報告

2024年8月5日(月)に父島(小笠原ビジターセンター)で研究会が開催され、実行委員長深沢徹以下が運営しました。8件の発表があり、そのうち、1件が招待講演でした(写真5)。参加者は現地12名(オンライン約12名)でした。夜は技術交流会で親睦を深めました。また、翌日6日(火)は、JAXAのご協力により、JAXA小笠原追跡所(写真6)の技術見学を行いました。ロケット打ち上げの際に状態監視や制御を行うための設備で水平近くの方角まで見渡せる位置にありました。父島は東京から1,000km南にあり、交通手段は船で24時間かかる長旅でしたが、船内で親睦を深めることができました。青い海、クジラ・イルカなどの観察、天の川が見える星空などの大自然も素晴らしかったです。(AMT研副委員長平野先生執筆)



写真 5 AMT 研研究会の様子

### 【4】学生-企業交流イベント案内

10月17日に福岡アクロスで開催されるA・P研究会において、恒例となっている学生と企業との交流イベント(図1)が行われます。今回は、総勢65件の学生によるポスター発表が予定されています。このイベントは2019年にA・P研究会から始まりましたが、今後は通信ソサエティ内でも類似な取り組みを行う予定です。このイベントを通じて、学生にとっては企業の情報を得る機会となり、企業にとっては学生と直接交流できる貴重な機会となります。詳細はA・P研究会のホームページをご覧ください。



写真 6 JAXA 小笠原追跡所

### 【5】副委員長の戯言

2024年パリオリンピックは、7月26日から17日間にわたる熱戦を経て、8月11日に閉幕しました。もちろん、観戦する競技や応援する選手は人それぞれ異なり、それぞれが自分なりの楽しみ方を見つけていたことでしょう。しかし、どの競技においても、選手たちの笑顔、涙、そして彼らの人生の物語が凝縮された瞬間が数多く見られました。競技にかけた情熱や努力、勝利の喜び、敗北の悔しさが、すべて彼らの表情に映し出されていました。オリンピックは、単なる競技の場ではなく、選手一人ひとりのこれまでの歩みと、未来への希望が交錯する舞台です。さて、あなたにとって、どの表情が一番心に残ったでしょうか。

A・P研からのお知らせ  
**10月AP研究会**における**学生と企業との交流**  
A・P研は企業と学生の交流を支援します

実施イメージ

企業および研究機関 取り組みの紹介	大学・高専の学生 自分の研究紹介
	優れたプレゼンの学生を表彰します

是非お申し込みを!

10月研究会@アクロス福岡(10月17日、現地開催)

図1 学生と企業の交流

### 〈問い合わせ先〉

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 袁 巧微(東北工業大学)

E-mail: ap\_ac-chair@mail.ieice.org (A・P研執行部のメールアドレス)

AP-NET: A・P研最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録はA・P研HPにて

A・P研HP: <https://www.ieice.org/cs/ap/>

